



たたら

第 7 号
島根学習センター内
島根同窓会

発行者 竹下靖彦
2016年7月発行

<http://oushimaned.main.jp>
E-mail info@oushianed.main.jp



同窓会総会参加者一同



第7回公開講演会

第4回(平成27年度)通常総会を開催

平成28年4月16日(土)15:10より開催しました第4回(平成27年度)通常総会は、委任状を含めて56人(63%)の会員が出席して開催しました。

恒例の通常総会に先立ち、公開講演会は7回目となり、本年1月より施行された個人情報制度(通称マイナンバー)について、市民と共に学びました。

講師には実施主体でもある松江市から担当者(松江市市民生活相談課市民活動推進係)を招き制度の概要と個人に係る事項について、行政の窓口における取り扱いなどについて、事例を基に説明を受けた。

結論は“マイナンバーでもっと便利に暮らしやすく”と宣伝されているが、要は行政の効率化以外に他ならないことのように思われました。会場からもマイナンバーカード申請されていない人が多数でした。理由は安全管理に危惧されている

からとのことでした。中には断固拒否するとの人もいました。

第4回(平成27年度)通常総会

この1年の活動は、同窓会会員の早期100人達成と各専門部会の確立、会報“たたら”の定期発行と企画の充実、中部地域を対象に公開講演会、会員懇談会の開催、財政確保、ホームページの開設、学習センターと共催にて卒業研究発表会の成功と平成24年度以降の発表論文の冊子作成発行などに取り組んで来ました。

平成28年度の主な活動としては、地域別会員懇談会と公開講演会を鳥取県米子市において開催。会報“たたら”年2回の定期発行、ホームページの充実、メーリングリストの開設準備学習センター開設20周年記念事業の成功に協力等々に取り組みます。

詳しくはホームページをご参照下さい。

創立5年目を迎えるために 早期に三桁の会員達成を

会長 竹下靖彦



島根同窓会会員の皆さま、
暑中お見舞い申し上げます。

先般開催しました第4回(平成27年度通常)では大変お世話様になりました。この紙面

をお借りして厚く御礼申し上げます。

皆さんは“放送大学”についてどのようにお感じでしょうか？もちろん入学の動機も様々であり、学士の経歴を学歴に刻みたい、資格のスキルアップを図りたい、生涯学習の場としたい、多くの開設コースに挑戦したい、興味ある面接授業を受けたい、修士課程に進みたい、コースに関係することなく履修したい等々でしょう。

本年は島根学習センターが開設されて20周年を迎え、11月12日(土)に島根県立美術館において記念行事が開催されます。目玉は岡部学長が来松されて記念講演が予定されています。在学生は勿論この機会に“放送大学”をご卒業された皆さんに是非お越しく下さい。今日の“放送大学”がどのように進歩発展しているのか、これから先どのように変わるのかについて、熱く語り合ひましょう。母校の記念行事にご参加頂き、懐かしい当時の学生生活を回顧下さい。

5年目の節目を迎えるために

さて、島根同窓会も早いもので、本年は設立5年目を迎え一区切りとなる年度となります。思えば設立後は取組む課題が数多くあって、あれも、これもと背伸びをしながら、“後進同窓会から先進を目指す”をモットーに掲げたことから、身の程をわきまえずに追い回されて慌しく歳月が過ぎ去りました。

お陰様にて、設立4年で多くの方のご支援で、会員も三桁に到達する見通しがつき、あと一踏ん張りで実る見通しとなりました。なぜ三桁に

こだわるのかその理由は、組織とは三桁100人を擁するのか二桁にとどまるのかは、その組織の社会的認知度として行政からも評価されるからです。自分の意思で入会することは会員からも賛同されていることを実証しているからです。同時に量から質的に組織力を充実することは当然です。同窓会は単なるボランティア団体ではないのです。大学に対しても発言することが求められるからです。組織の前進に改めて御礼申し上げます。これも一重に卒業生の皆さま、会員の皆さま、島根学習センター各所長、職員の皆さん方よりの応援のおかげで心より感謝しております。

昨年は、総会にてお約束致しました“ホームページ”を4月より立ち上げ、会員の皆さん、在学生の皆さん、大学以外の多くの方々に島根同窓会の存在をアピールできることとなりました。

大学で学んだ知識を社会の中で実践している姿や、ご自身の教養を高めた知識を社会に披歴して、放送大学の存在が地域にあって、身近に高等教育を提供できていることを発信して下さい。

昨年はもう一つの目標でした卒業研究及び修士論文概要集を島根学習センターと共催にて発行しました。これも20周年を飾る出来事の一つの出来事となりました。

本年度に達成すべき課題

- ①会報“たたら”の定期発行(年2回)
- ②卒業生・在校生と地域別懇談会の開催
- ③情報網の整備化(メーリングリスト)
- ④島根学習センターと協力・共同活動
- ⑤地域における自主企画への取り組み
- ⑥三桁の会員化を達成
- ⑦執行部の強化を目指す
- ⑧公開講演会の開催

以上が第4回通常総会における決定事項となっていますので、実現に向けて役員一丸となって取り組む決意です。引き続きご支援をお願いします。

「向き合うこと」・「かかわり合うこと」 を基本にして

島根学習センター所長 佐々 有生



6月、思いがけず、面接授業の受講を経験しました。

本学習センターでは、特別な事情がない限り、授業開始前に、所長が面接授業講師の先生

を紹介しています。そのため、面接授業日が迫ってくると講師紹介に悩み始めます。講師の先生方は、ほとんどが自分とは異なる研究分野です。まずは講師の先生ご自身の自己紹介文や研究履歴などを参考にさせていただくのですが、自分の不得意な専門分野の研究となると、ほとんど困ってしまいます。講師紹介は、授業の前段で事務連絡と併せて短時間に行います。授業そのものではないので、当然ながら受講生の皆さんは聞き流されていいのですが、内容の間違いは許されません。せつかくの場なので、受講生の皆さんが聞きやすいように、また何かしらエピソードやユーモアを含めて先生のよさが伝えられないかなどと、欲張った思いも膨らみます。いずれにせよ、そこでは、限られた時間内に簡潔で的確な紹介が求められます。これは、所長の大切な役割だと思っていますが、未だに力及ばず、なかなかうまく果たせていないのが実情です。まずは講師の先生に対して失礼のないようにと頭を悩ませるばかりです。

講師紹介後は、そうした反省の気持ちを抱え、少々落ち込みながら講義室の後ろにさがって、わずかな時間でも授業の雰囲気や問いかけ・語りかけ、学習形態など、できるだけ講師の先生の指導の一端を拝見させていただくようにしています。それは、自分なりに、授業の導入のあり方や語りかけなど、「授業をどう創るか」などといった、伝える立場からの何かしらヒント・手立てなどを学べるからです。よい雰囲気うちに面接授業が始まっていくと、少しホッとし、

落ち込んだ気持ちがようやく和らげられます。落ち込んでいる時だけに、それが、自分にとって何ともいえない心地よい「なぐさめ」になります。

ところで、思わず受講した面接授業は、放送大学准教授秋光淳生先生の「パソコンで学ぶデータ分析」でした。講師紹介の後に、いつもどおり恥ずかしい気持ちを抱きながら第二講義室の後方に移動しました。当該面接授業は、事前に14名の方が受講申し込みされていましたが、実際の受講は10名でした。準備していたノートパソコンに空席があったり、「データ分析」への興味・関心が後押しになったりして、つい受講生の皆さんと一緒に学んでみたい気持ちが湧きました。内容は、RとRStudioというフリーのソフトウェアを用いてデータを分析する方法です。1・2コマくらいの授業参加のつもりでしたが、とうとう最後まで受講してしまいました。

個人的には、すぐに「データ分析」の活用とまではいきませんが、とてもよい学びの体験になりました。皆さんがそれぞれパソコンやソフトの扱い、データ処理など、熱心に、しかも十分に理解しながら学ばれていることに驚きながら、ディスカッションなどで受講生の皆さんと同じ目線で身近にかかわり合えたことが何より嬉しく思いました。

教師の必携はICT時代

新任の頃、まず購入したのが「鉄筆」（謄写版用の原紙に文字などを記す用具）でした。教師の必携の用具だったのです。そう遠い昔話ではありません。今日、教育現場は、パソコン処理や簡便な印刷等、授業・業務等のあらゆる面でのデジタル・データ化・効率化が進んでいます。しかし、いつの時代でも教育の営みは、「人と人のかかわり」が原点だと思っています。放送大学は、文字どおり「放送メディア」を主体にした学びが最大の特徴ですが、島根学習センターは、お互いに「向き合うこと」・「かかわり合うこと」を基本にするセンターでありたいものと願っています。

「よしきり」

客員教授 足立悦男



「よしきり」という鳥をご存じでしょうか。

初夏。この季節になると、私はこの鳥の鳴き声を聞きたくなります。今朝も散歩で、田んぼ道を通って葦原に近づくと、「ぎゃぎゃす ぎゃぎゃす」と、騒々しい鳴き声が聞こえてきます。葦原を振るわすほどに激しく鳴き交わしています。

葦は「あし」と読みますが、「悪し」のイメージを忌んで「善し」と言い換えて、「よし」と読むことがあります。ヨシ(葦)の茎を切り裂いて虫を補食するので、よしきりです。

立ち止まって、その鳴き声を聞いていると、ふっと子供の頃のことを思い出します。子供の頃、鳴き声を頼りに、葦原に隠れている鳥の姿を探したのですが、なかなか姿を見せません。

そんな記憶を頼りに、「よしきり」という詩を書いたことがあります。拙い作品ですが、ご紹介します(「日本海詩壇」27/8/16)。

「よしきり」

朝の散歩で葦原を通ると ぎゃぎゃす ぎゃぎゃす と騒々しい鳴き声が聞こえる よしきりであった

ウグイス科の鳥というのに 優雅なウグイスの鳴き声とは似ても似つかない ギョギョシギョギョシと鳴くから行々子ともいう と季語事典にはあるが 浜のよしきりはそうは鳴かなかった

浜の子供達は よしきりのことをぎゃぎゃすと呼んでいた 葦原に近づくと 子供達の気を引くように 細い葦の茎を揺らしながら ぎゃぎゃすぎゃぎゃす と激しく鳴いた

浜の子供達には やんちゃな友達が葦原に隠れて 遊ぼうよ遊ぼうよ と誘いかける声に聞こえた

よしきりは中国南部から渡来する夏鳥であった 夏が終わると 慣れ親しんだ鳴き声の思い出を残して いつの間にか すっと葦原から消えていった

平成27年度 第2学期 学位記授与式が行われました



学位記を授与された皆さん

平成28年4月3日(日)午前11時から、平成27年度第2学期学位記授与式が島根学習センター第一講義室に於いて挙行されました。

今学期の学位記授与者は学部生22名、修士修了者2名で、当日は9名の方が出席され、佐々有生センター長より、お一人おひとりに学位記が手渡され、会場の出席者から祝福の拍手で卒業を讃えました。

卒業研究・修士論文概要集を創刊

続いて、佐々センター長より式辞があり、本年開設20周年を迎える年に、初の名譽学生の誕生、そして記念すべきこととして、3年前の平成25年3月に同窓会が設立され、本年4月にホームページが正式に開設されたこと。3月に卒業研究・修士論文概要集が創刊されたこと。これらのことは、20年の歩みの機が熟したこと、学びの熱意の思いの醸成によるもの、そして、更なる学びへの励みとなり、大変意義深いものであると讃えられました。

卒業はゴールではなく「スタート」

そして、NHKホールに於いての卒業生代表の謝辞について触れられ、「卒業はゴール」と思っ

ていたが、学ぶことの喜びを知って「スタート」であると気づかされたこと、学びの意識の変化を語りかけられたことを紹介されました。

さらにセンター長は、卒業への心からのお祝いと、この節目の日はどう学び、どう学んできたか、そしてこれから「どう学んでいくか」を振り返りながら見つめ直して欲しい。それは「どう生きてきたか」「どう生きるか」見つめ直しと重なると思うからです。と語られ、明日からの新たな「学び」「生き方」を見出され、充実した日々を重ねていかれることを願われました。



答辞は石原八千代さん

続いて来賓の足立前センター長の祝辞、竹下同窓会長の祝辞があり、次いで在校生代表の青木留美さんの送辞、卒業生代表の石倉八千代さんの答辞で、仕事、家事、育児をこなした新たな挑戦として11年間学び続けて今感無量であり、自分を褒めてやりたい。そして、放送大学での学び、思い出は人生の糧となると結ばれました。

卒業生の皆さんの晴ればれとした表情が、ひとときわ輝いて見えました。



花束を手渡す客員教員

最後に卒業生、修了生の皆さんに、客員教員より一人おひとりに花束の贈呈があり、盛大な拍手で祝福し、終了致しました。

(記：森脇エイ子)

平成27年度

第二学期卒業を祝う会を開催

4月3日(日)に行われた学位記授与式の後、学習センター4階の第二講義室において、卒業生を祝う会が開催されました。



祝う会食事風景

本会は同窓会が主催し学習センターが共催して行われたものです。お祝いには佐々島根学習センター所長様、各客員教授の皆様も参加して頂き、会場は、緊張から解放された卒業生・修了生の晴れやかな表情でどれも華やかな雰囲気になりました。

はじめに、竹下会長から、卒業生・修了生の努力や支えていただいた方への感謝を込めて、お祝いの挨拶がありました。あわせて同窓会への加入のお願いもありました。

また、恒例となった学友会員に対しお祝いの記念品が八田会長から各会員に贈られました。

その後、食事をとったあと、卒業生の方々からひと言ずつ苦労話や今後の抱負などを話していただきました。

看護師の方からは「働きながら勉強することの大変さ」や、若い方からは「自身の成長してきた環境から学びを深めたかった」など、それぞれに思いを語っていただきました。

続いて、客員教授のみなさま全員からお祝いの言葉をいただき、佐々島根学習センター所長からは、島根で学芸員の資格取得のための仕組み作りについて、検討状況の報告もいただきました。

最後には同窓会のメンバーがそれぞれ自己紹介と自身の体験に基づいたアドバイスを送り、時間一杯まで和やかに過ごし終了しました。

(記：石川直樹)

修士修了・学部卒業生の声

ゼミの思い出

修士修了生 坂田真一郎



私は、今春に放送大学大学院を修了しました、坂田と申します。ゼミの思い出については、入学当日に、ゼミ演習のクラス分けの割り振りが決まり（特に希望をしてい

なかったため）そこで、ゼミの教授から今後は一ヶ月に1回のゼミを行う旨を聞いたときはびっくりしました。

入学前の情報ではパソコンで、遠隔授業でも可能との声がたくさんあり、いろいろなメディアにも記載されていました。

島根からは東京圏までの往復の距離・時間もかかります。加えて経済的な負担も大きく、最も運賃の高い、飛行機を使ったことは、一度もありません。専ら、JRで東京の文京学習センターに通っていました。

私のゼミは法律が中心でしたので、様々な学生がいました。国の機関の幹部候補や、地方自治体の幹部候補、職場から引退し法律を極めようとしている方など、二度目の大学院の方も複数いらっしゃいました。

そのような学生の中、一人ひとりが、自分の研究を発表する輪講がありました。みなさん社会人なので、言い方は婉曲ですが、ストレートに論理の弱点を突いてこられるので毎回緊張していました。

輪講の後は、懇親会などがあって、大変楽しかったです。普段は接触がない方と、お話ができるのは新鮮な気持ちになります。

私のゼミの最大の目玉は、北海道のゼミ合宿です。一年目はいけませんでした、二年目は参加できました。夏の北海道という、観光資源が豊富な土地で勉強をするために向うわけです。

しかし、やはり夜の懇親会は格別でジンギスカンとしゃぶしゃぶが同時に楽しめる店で行い、

大変盛り上がったのを思い出しています。まるで普通の大学生のような感じになりました。ゼミは楽しいですが、大学院での研究は非常に高度です。特に文献だけの調査報告などは、一般学生の領域といわれ社会人学生は、それに経験をプラスしないとイケないなどと言われていました。

二年間の限られた時間で、仕事をしながら研究し、現実と理論との乖離をどう埋めていくのかが、私の苦しんだところでございます。

とりとめのないお話になりましたが、修士論文を書いた後には、達成感と疲労感がやってきます。しかし、同時に感動もやってきます。その感動を皆様も味わっていただきたいと思います。

最後に、今私は、博士論文に挑戦しています。

年度	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
件数	1	2	0	4	3	4	1	1	4	1	0	12	6

放送大学大学院が挑戦する勇気を与えてくれました。それだけでも大変感謝しております。

学部卒業生の声

「学びの楽しさを味わう」

大学院 生活健康科学プログラム
品川隆博

3月に放送大学学位記授与式に参列し、卒業生代表者の挨拶に、大変な環境の中での学びと先生との出会いがあり、数十年かけて修了にむずびつけることができた喜びの言葉を聞き、感動とともにわが身の卒業の喜びを感じました。また、放送大学の度量の大きさをも感じました。

さて、私の放送大学での学びのきっかけは、生活している地域の過疎農山村が、10年先には、人口の減少、過疎化が更に進み、高齢者を取り巻く環境が厳しくなり、地域福祉についての不安を感じたことです。

生活と福祉コースを選択し、福祉関係の知識を深めることを目標に、生活の時間の工夫と環境を作り学習を進めました。面接授業は関心のある講義を選択し、中国地方内の学習センターに出向き受講し、授業の合間には、学習センター所属の学生と知り合い、情報交換・交流し、学びの楽しさを得ることができました。学生の中には、連れ合いを亡くした人、奥さんの介護にかかっている人、大きな手術をした人等いろいろな環境の中で学習を継続されていることを知り、器の大きさを感じました。

福祉関係の知識を高めることにより、過疎農山村の地域福祉の現状と課題を整理してみたい気が起こり、卒業研究活動を選択しました。指導の先生は、放送大学の田城教授で、ゼミの中

邑南町・布地地区の人口					
	人口(人)			割合(%)	
	総数	65歳以上	75歳以上	65歳以上	75歳以上
邑南町	11,356	4,799	2,954	42.2	26.0
布地	195	100	67	51.2	34.3

平成37(2025)年の人口推計					
県・町	人口(人)			割合(%)	
	総数	65歳以上	75歳以上	65歳以上	75歳以上
邑南町	9,291	4,405	2,865	47.4	30.8
布地	127	91	51	71.9	40.7

で修士課程の学生と一緒に学び、先生の指導と修士課程学生からの卒業研究のアドバイスを受けることができ、卒業研究活動をまとめることができました。

田城先生からは、研究テーマは地域づくりにもつながることから、更に研究活動を進めたらどうかと温かい言葉を頂き、修士課程に挑戦しました。その時の大学卒業単位数が18単位残しており、平成27年度の2学期はかなり厳しいものになりましたが、なんとか乗り切り、卒業単位数に達し、卒業と修士課程への目途がつき安堵した3月でした。

大学からさらに大学院へ

4月には、大学から大学院へのモードに切り替えることにより、先々の不安と期待が交差しております。指導の先生は、引き続き放送大学の田城教授で、研究はアクションリサーチによる活動を進められています。この研究手法は、

私自身が研究フィールドで活動を行い、地域の変化を調べる能動的なものです。成果をまとめることにより、地域づくりにもつなげることができ、一挙両得です。

また、近江商人の「三方の利」に例えれば、高齢者良し、家族良し、地域良しにもつながるか、大きな期待をかけています。

今後、多難のことが予想されると思いますが、学びの楽しさを常に持ちながら学習を進めていきたいと思っています。

平成27年度

卒業研究・修士論文発表会に参加して

理事 川上美里



卒業研究・修士論文発表会が平成28年2月7日(日)15:00~16:30から学習センター3階において開催されました。発表者・演題は以下の通りです

(発表者敬称略)。

○品川隆博：学士(生活と福祉コース)

演題「過疎の農山村地域での地域福祉活動の現状と今後の課題」

○難波幸夫：修士論文(社会経営学科プログラム)

演題「NPO法人の運営管理と財務諸表にみる政策提言-NPO法人の使命と社会貢献の実現」

○坂田真一郎：修士(社会経営科学プログラム)

演題「漁船の居眠り海難の調査と提言」

○福頼尚志：博士(後期課程)研究報告

演題「地方消費者行政における『消費者の自立』支援」

発表者の皆様がライフワークとしてされていることをテーマに研究をまとめられ、研究の一部分でしようが、堂々と報告されているのに感

銘しました。研究論文をまとめるまでの苦労話も伝えて頂き、研究に取り組みたいと思っている方、修士論文を目指している方の参考になったと思います。

地域の福祉力が地域を変える

品川隆博さんの研究は、島根県邑智郡邑南町をフィールドに地域福祉活動の現状についてまとめられ、地域福祉の課題を整理、高齢者を支える見守りネットワークの現状と課題を明らかにし、安全・安心に生活できる地域づくりをめざすという内容でした。研究成果で述べられていた地域福祉力が地域づくりに求められている地域住民の力であるということ、地域社会の「自助」「互助」「共助」「公助」の仕組みづくりが課題であることが良く解かり、島根の中山間地域の福祉の現状を詳しく知ることができました。

看護師をしている私自身、貴重な研究成果に触れ、地域住民の暮らしやQOLを維持しながら在宅療養支援をどうしていけばいいのかを考える貴重な機会になりました。今後は大学院修士に進まれ研究を深められるとのこと、更なる成果を残していただくことを期待します。

NPO法人の財務諸法からの問題点



難波行夫さんの研究からは、仕事の関係で営利に興味があり、NPOについて研究を行ったということでした。NPO法人について島根県雲南市のNPO法人「おっちらボ」の収益やNPO組織の状況、三重県の中間支援団体についても比較研究されていたと思いました。また、行政はスリム化され黒字になっているがNPO法人はどうか、NPOの現状と問題について触れられていました。研究を重ね政策提言につなげることが重要であると感じました。

また、行政はスリム化され黒字になっているがNPO法人はどうか、NPOの現状と問題について触れられていました。研究を重ね政策提言につなげることが重要であると感じました。

船員の生活から海難事故を分析

坂田真一郎さんは船員労務監督者ということで「漁船の居眠り海難の調査と提言」について

研究をされていました。昨年の島根県で起きた事例報告などあり、自身の職場、医療現場の安全管理を考えながら聴講しました。人はだれでも間違えるという原則を踏まえ、昼夜逆転の生活になる漁船の生活は、巻き網船が8時間～6時間、浜田底引きは1週間帰ってこない。対策として①体調管理、休憩のとり方・・・60%とっている。②眠くなったら体操・・・ほとんどとっていない。③時計アラーム活用・・・ほとんどとっていない。という事でしたが、対策厳守だよと感じた次第です。

また報告に交え「修士課程は修士論文をまとめることが主で厳しさも求められ、本音で討議することで自分にはないものに気付かされる」の言葉が印象に残りました。

現役行政マンからの消費者支援



福頼尚志さんは博士（後期課程）、まさに博士論文の真っただ中で「地方消費者行政における『消費者の自立』支援」をテーマに研究を重ねられ、担当教官と

一対一で授業がすすめられて、査読付き論文を2本書く必要があるとのこと、そして1部：理論編、2部：現状分析編、3部：政策提言編にまとめられるということでした。まさに博士課程はプロフェッショナルの育成であると思いました。

今回、発表会で研究成果のみでなく、研究期間の苦労話などをして頂いたことがとても良かったです。大学院の試験を受けるまでの対策や論文作成までの進め方など参考にすることがたくさんありました。発表会ははじめに佐々所長から「放送大学では卒業研究を義務付けられていないが、発表会で興味関心を持ち研究にチャレンジしてほしい」と挨拶されました。

放送大学の指導教官は専門領域の第一人者ですし、研究をする上でも本当に恵まれた環境にあると思います。今年度は発表演題が例年より多かったですし、博士課程1期生の福頼尚志さ

んが研究報告を丁寧にしてくださり、研究をやりたいと思われた方も少なからずいたのではないのでしょうか。発表会も一層が充実したように感じました。

発表して頂いた4名の方、貴重な研究成果報告をありがとうございました。私が言うのもおかしいのですが、これから地域や職場で放送大学での研究成果を糧として社会貢献され、人材育成されることを願っています。

発表者・参加者の皆さま、島根学習センターの佐々所長、関係者の皆さま、とても有意義な時間を過ごさせて頂きありがとうございました。



過去最高の出席者

第6回公開講演会

「松江城天守国宝指定の秘話」

—国宝指定の決め手は—



平成28年2月7日、島根学習センター3階の第1講義室において公開講演会「松江城天守国宝指定の秘話」[国宝指定の決め手は]

—国宝・松江城天守完成時の祈禱礼と堀尾氏の宗教的背景—が、講師として今回の国宝化に向けて文字通り陣頭指揮をとられた松江市史料編纂室の稲田信氏をお迎えし、膨大な参考資料と写真資料を駆使して行われました。

1. はじめに

昭和3年、松江城天守は松江市に移管された。昭和10年に当時制定されていた国宝保存法によって国宝に指定されたが、昭和25年文化財

保護法の施行によって文化財の見直しが行われた際、松江築城完成の年代を特定できる史料がなかったため、重要文化財に変更された。近年、松江開府400年事業で国宝化に向けての機運が高まり、次に述べるような経過を辿り、ついに平成27年7月8日に国宝に指定された。

従来の国宝指定の考え方とされていたものに、次の4分類の代表的な物が指定されているという見解があった。①天守だけのもの（独立式—犬山）、②天守に櫓などを附属したもの（複合式—彦根、犬山、松江）、③天守から渡り廊下や多聞櫓を小天守や櫓に渡したもの（連結式—松本）、④天守と小天守群または櫓群を連結したもの（連立式—姫路）

2. 松江城の調査と新たな知見を得て国宝指定に至る2つ流れ（平成21年～22年）

（その1）松江市長がマニフェストで国宝化運動を発表、「松江城を国宝にする市民の会」発足、新たな知見を得るため松江城国宝化推進室設置と「松江城調査研究委員会」の発足（所在不明の祈禱礼、大手門写真に500万円の懸賞金を懸ける）、西和夫氏らによる松江城調査と調査成果の積極的な公表による特徴的な建築構造の解明。

（その2）史料編纂室設置と「松江市史編集委員会」の発足により、松江市史編纂基本計画による10年計画の「松江市史編纂事業」（全18巻）と悉皆的な史料調査の開始、松江に関する全国的で学際的な調査・研究ネットワークの形成などが挙げられる。

3. 後世の文献で語られてきた松江城築城に関わる史料

松江城築城の頃の同時代史料（一次史料）はこれまでほとんど見つからない。「島根県史」

（1929）と他の文献資（史料）記載での松江城築城に関わる記述内容と比較すると「千鳥城取立古説」（18世紀初頭に成立か）、「雲陽大数録」

（1767～1782）、「千鳥城築城とその城下」（1906）などに僅かに見られるが、いずれも1世紀以上後に編纂されたものであるため正確性に疑問が残されていた。

4. 城戸論文の指摘と祈祷札の再発見およびその 掲示されていた場所

①天守の創建について、昭和41年「仏教芸術」60号において、城戸久氏が松江城天守祈祷札の存在について発表されている。非常に重要な指摘であるので少し引用する。

「ただ筆者は、昭和十二年七月、この天守を実測調査した際に、左のような祈祷札が四階に所在したことを見出している。二枚あって、当時一枚は読了出来たが、他はかすかに慶長十六の記年が判読されるばかりであった。長三尺、幅四寸七分、厚二寸七分の檜板の表に 慶長十六曆 欽 / 梵字 奉読誦如意珠経長栄処 / 正月吉祥日 言とあり、裏面には文字はない。この祈祷札は恐らく古記に照らして、天守完成の時と認められ、それが慶長十六年(一六一一)正月であったことを確認させるまことに重要な資料である。(昭和三十年発行の重要文化財松江城天守修理工事報告書にこの祈祷札の存在が掲げられていないのは、不審であって、その後紛失したものか、どうか。よって敢えて、ここに紹介したわけである。)」

②松江市は市内寺社史料調査によって、平成24年5月21日松江神社からついに祈祷札を発見した。祈祷札は次の二枚があった。

・「奉轉讀大般若経六百部武運長久処」 祈祷札・・・大山寺

・「奉讀誦如意珠経長栄処」 祈祷札・・・？

③祈祷札が再発見され、天守の創建は慶長十六年正月と確証することができた。しかし、この祈祷札が果たして松江城のものかどうかは記載がない。そこで、祈祷札についている釘穴と祈祷札が打ち付けられた柱があるかどうかの調査が進められた。そうすると早い段階で地下1階に高さや位置が一致する柱が見つかった。周りの柱は天守修理工事するときほとんど入れ替わっていたので、この柱が残っていたのは、正に奇跡というしかない。このことが国宝化に向けて確固たる証拠となった。

5. 祈祷札と堀尾氏の宗教的背景など

松江城を築城した堀尾氏は高野山奥の院(和歌山県)に一族の墓所を設け、松江城の鬼門(北東)には真言宗千手院、裏鬼門(南西)には真言宗報恩寺を配置するなど、真言宗との関係が極めて濃いことを示された。松江城築城時加持祈祷や宗教的背景、その後の宗教的行為の系譜も見えてくるかも知れない。

また、築城に際し行われた三態、三様の祈祷(鎮物 三点、鎮宅祈祷札 四枚、祈祷札 二枚、附指定の意味)を解説され、現在に伝わる4枚の松江城古写真について撮影年などを解明された。

6. おわりに

明治27年、市民有志の手によって松江城は崩壊の危機を免れた。松江城を大切に思う市民の心には歴史がある。松江市史編纂室では平成21年の設置以来、計画に沿った「松江市史」の刊行と、基本調査、付帯出版物の刊行を行ってきた。ここから見えてくる松江市域の最大の特徴は、古代から現代に至るまで島根県の政治権力の中核が置かれた場所であり、山陰の政治、経済、文化の中核地であったことである。

そのため、松江市には驚くほどの貴重な歴史史料が数多く残されている。今後とも継続的な史料調査と研究体制の必要性を実感している。

(記 小汀政徳)



作文の時間発表

「だんだんサロン」の作文の
時間とおしゃべり会

理事 金田文子



わたくし達にはいろいろの能力があります。そのうちの「書く」という能力を高め、自分を表現する機会として、「だ

だんだんサロン綴り方教室」(つづり方)が始まりました。

第1回は平成22年6月27日(土)、講師は当時の島根学習センター所長、内藤富夫教授でした。教授は日頃、下記のことをよくお話になっておられました。

「わたくしはこれまでいろいろな人から、いろいろな事を教えて貰って成長してきました。このことはいずれの人にもあてはまる事でしょう。見まねに加えて、教える、教えられることで、知識や知力が人から人へ流れます。それは知識、技能の伝達、文化の伝達です。各自、一人ひとり、知識、技能を身につけています。それを周りの人、必要とする人、興味のある人に、出来るだけ多くの人へ、それもやさしく、親切に伝えましょう。やさしく、親切であればあるほど、伝達がうまくいくでしょう。どんどん教える教え魔になりましょう。そのためには学びが必要です。其れによって、きっと良い社会が作れるでしょう。」

新たに「おしゃべり会」も開始

「だんだんサロン綴り方教室」に併せて「おしゃべり会」も始まりました。

「おしゃべり会」は授業のこと、履修のこと、生活、趣味のことなど、身の回りのありとあらゆること、なんでも話題に取り上げ、語り合い、学び合いの場となるよう、楽しい学生生活の重要な交流機会、サークルとしての準備会を平成22年5月1日(土)に開き、これも講師に内藤富

夫教授を中心に、世話係にSさん、Oさんで「月1回」「だんだんサロン綴り方教室」と同日に開かれることになりました。

「だんだんサロン綴り方教室」の名称は、発足間もなく「だんだんサロン作文の時間」となり、平成23年10月にはサークル「おしゃべり会」も「だんだんサロンおしゃべり会」になりました。何れも活発に語り合い、教え合い、学び合う場になり、平成28年5月にはそれぞれ「70回」を迎えました。

「だんだんサロン作文の時間」では、Kさんの「自殺大国日本」、Mさんの「経済白書」、Yさんの「海外状況と日本」など、社会的なテーマが続いていましたが、回を重ねていくうちに身近なテーマが多くなり、個性的な表現や内容になってきました。

「だんだんサロンおしゃべり会」では、「大学で学ぶ意義」、「日本の大学の方向」、「他県の学習センターの事」などなど、才能豊かな方々が集まり、益々待たれる活動になりました。

内藤富夫所長ご退任になられるので、私達は二つの活動の行方を大変心配しておりました。しかし、新学習センター所長足立悦男教授のご指導を戴けることになり、内藤富夫教授と共に大喜びしたことが思い出されます。

新たに足立悦男所長が引き継ぐ

新センター所長足立悦男教授のご指導になってからは、いかなる多忙月でも開催されるようになりました。学生も一段と熱が入り、今は20代から80代、職業もいろいろ、学生以外の方も参加されています。「だんだんサロン作文の時間」、「だんだんサロンおしゃべり会」の単独時間では足りなくなり、平成28年度4月から合同時間にしました。これでじっくり話し合い、学び合い、満足の得られる充実したとても楽しい時間となりました。内容も膨らむばかり、留まるどころがありません。

学生のTさんは、「だんだんサロン作文の時間」で毎回発表され、自分の作文集「学びへのアプローチ」(16題31頁)を作られました。Aさん

は、ほとんど毎回身近な家庭生活のこと、学生研修旅行、成績内容などについて、現在は自叙伝まで書き上げておられます。

また、戦前、戦中、戦後に詳しいMさん、その社会状況の中での人間の生き方、考え方、現代との違いなど、今そこにあるようにリアルな作品を書いておられます。まったく書かない方もありますが作品がどんどん生まれてきます。全員が耳をそばだてて聴きます。頷いたり、感動したり、笑い転げたり、書くことも話すことも、とても表現豊かになりました。脱線がひどいと足立教授が軌道修正して下さいます。

足立教授のコメントを次回にどう生かすか、普段の生活にどう生かすか、また学習、試験にどう生かすかなど、各自一人ひとり、幅広く、奥の深い目標を持って参加しています。

盛り上がる一番の理由は、「教授を囲んで我が胸の内」を語り合うところにあるように思います。そして多数のコメントが溢れる作品の大きな源であるように思われます。

私は、ヘビ、ムカデ、ゴキブリなどに会うと体が震え、嘔吐を催し、硬直状態になります。

「作文」についても幼い時からこの状態でした。その私が今は「少しでも書いてみようかな」と言う気持ちになり、下手でも「書きたい」と書くことの「大切さ」「楽しさ」が湧いてきました。

「あなたのおしゃべりをそのまま書けばよい」とか、「だんだんサロンおしゃべり会」の話題など、それを「そのまま書くと面白い」とか、「そこそこ、そこがとても面白いそのところを書く」とか、「吹き込み」「テープ起こしの仕方」など、今まで気づかぬこと、なぜできなかったのかな等、いろいろと足立教授に教わっています。

「書き方」、「話し方」のテクニックが自然と獲得できます。わかってゆくことは気持ちを豊かにしてくれます。「楽しく語り合う」、「楽しく学び合う」、「楽しく表現し合う」、「書く」、「話す」活動は、「考える」ことにつながり、人の心が豊かになると思います。この豊かな気持ちこそが「生きる」ために大切ではないでしょうか。面接授業や欠席者もありますが、5月は11名、

6月は13名の出席で賑やかでした。

この「だんだんサロン」一同とても大切にしています。

会員リレートーク⑤

横綱の品格

理事 宅和由男



10代20代の頃は、興味が無かったり食べなかったのに、30代40代となるにつれ、魚の味がちょっと恋しくなり、脂っこいものが欲しくなくなり、クーラーの風や冷えすぎたビールがちょっと合わなくなったりと、歳と共に自分の嗜好の変化に驚いたり、納得したりしてきています。そんな変化の一つに、30代の後半から少しか相撲に興味を持つようになったことがあります。

今年の夏場所は、白鵬の優勝でした。稀勢の里もずいぶん頑張ったのですが、白鵬にはかないませんでした。しかしこの強い横綱も近年はいろいろ意見が付くことが多くなってきました。立ち合いでの「変化」と言われるものや、ダメ押しと言われる勝負が決まった後の行為が原因のようです。

以前朝青龍が現役だった頃は、朝青龍が悪役で白鵬が正義と見られていたような雰囲気がありました。今や朝青龍と同じとは言わないものの、白鵬に対して苦言を呈する人が多くなったようです。そこで問われているのが、「横綱の品格」のようです。

文化の違いなのでしょう。白鵬の身のこなしには、「勝てば文句ないだろ」というような、不遜な空気さえ感じてしまいます。90年代に活躍した舞の海のように、新弟子検査の際シリコンを頭に注射をしていたような、小兵力士がいろいろな技で、大きな力士を翻弄する姿は見る方もわくわくしたり、応援をしたりして取り組みを見るのですが、横綱が同じことをすれば、

見ている方はがっかりしてしまいます。同じ土俵、白星は白星。とは思いますが、見る方としては横綱には「横綱相撲」を期待しています。確かに勝利にひたむきな姿は周りから見ていて、感動を覚える時がありますが、勝利に執着するほどになると、見ている方は冷めてしまいます。

ほかの競技であれば強いものが王者で、勝ち方について問われることは少ないでしょうが、相撲においては強だけでなく、横綱にはそれなりの品格が求められます。このような価値観

は、海外では理解が難しいのかもしれませんが。前出の朝青龍も、横綱の品格については理解できなかったようです。

大鵬に憧れる白鵬であるなら、大鵬のような名実ともに兼ね備える横綱になってほしいと思います。見る方としては、記録より記憶に残る横綱を見たいと思っていますから。ただ、個人的にはもう一つ、稀勢の里、いや隠岐の海！頑張してほしいです。

～同窓会よりお知らせとお願いです～

第4版の会員名簿お届けします

遅くなりましたが、第4刷目の会員名簿を同封しました。記載内容は「入会申込書」における個人情報について「開示同意項目」のみの記載となっています。同意されない項目は未公表ですのでご了承下さい。なお、もし記載内容に誤りがございましたら、お手数ですが竹下までご連絡下さい。

①あくまでも個人情報ですので、会員名簿の取り扱いには十分ご配慮下さい。

②住所などについてご連絡先が変更となった場合は、竹下までご連絡して下さい。

③FAX番号が未記載の方は、お手数ですが竹下までお知らせ下さい。

ただし開示に不同意される場合は、その旨ご指示下さい。同窓会より連絡を要する場合もありますので、お手数ですが竹下までお知らせ下さい。郵送料節減のためFAXでの活用には是非ともご協力をお願いします。

◆同窓会活動日誌◆

(2016年1月～6月)

2月 07日(日) 第4回役員会
 07日(日) 第3期第3回広報部会
 07日(日) 第6回公開講座
 07日(日) 平成27年度卒業研究・修士論文発表会
 14日(日) 鳥取学習センター若所長
 21日(日) 市民活動センター団体説明会
 27日(土) 2学期学位記授与式打合せ
 27日(土) 第3回情報部会
 3月 12日(土) 第3期第5回役員会
 13日(日) 第4回定時総会案内状作業
 15日(火) 第4回定時総会案内状発送
 26日(土) 第4回情報部会
 27日(日) 第3期第6回役員会
 4月 03日(日) 第2学期学位記授与式
 03日(日) 第2学期卒業を祝う会
 03日(日) 28年度1学期入学者の集い

4月 03日(日) 28年度1学期入学者茶話会
 08日(金) 平成27年度会計監査
 09日(土) 連合会第4回中四国交流会
 10日(日) //
 16日(土) 第7回公開講演会
 16日(土) 第4回通常総会
 5月 06日(金) 第4回通常総会資料発送
 21日(土) 第4期第1回役員会
 29日(土) 連合会第19回総会
 30日(日) //
 6月 03日(金) 金澤講師に依頼
 03日(金) 懇談会会場仮予約(米子)
 09日(木) 第8回公開講演会協議
 18日(土) 第3回会員名簿部会
 18日(土) 第1回地域貢献部会
 18日(土) 第10回広報部会
 18日(土) 第5回情報部会

**島根学習センターから
行事のご案内です!!**

各行事に参加するには、事前に申し込みが必要です。

※公開講座・セミナー等については学生以外の方、途中からの参加の方もOKです。お誘い合わせの上ご参加ください。

問合せ:島根学習センター ☎0852-28-5500

※だんだんサロン、だんだんセミナーは第2講義室(スティックビル4階)で行います。

だんだんサロン

「作文の時間」13:30～15:00/「おしゃべり会」15:30～17:00 講師:足立悦男 客員教授

8月13日(土)、9月10日(土) ※作文の時間・おしゃべり会のどちらか片方だけでも参加できます。

だんだんセミナー

●「古文で作文～古典文学の楽しみ方～」講師:野本瑠美 客員准教授

7月15日(金)、8月19日(金)、9月16日(金)15:00～16:30

古典文学は「読む」もの、そう思っていないでしょうか? 古語辞典を引いて、現代語に訳すだけが古文の楽しみ方ではありません。現代ではプロの作家になるのは一部の人だけかもしれませんが、たとえば、平安時代の和歌ならば、誰もが「作り手」になりうるものでした。このセミナーでは、古語で和歌や説話、物語を書いてみることで、当時の「作り手」の立場から作品を捉え直すことに挑戦してみたいと思います。テキストは特に必要ありませんが、古語辞典をご用意ください。中学・高校くらいの古典の知識があると役に立ちますが、必須ではありません。お気軽にお越しください。

●「英語小説を愉しむ」講師:宮澤文雄 客員准教授

7月17日(日)、8月20日(土)、9月18日(日)15:00～17:00

このセミナーでは平易な英語で書かれた文学作品(主に小説)を読みながら、英語の面白さ、文学の面白さを受講生のみなさんと一緒に発見していきます。文学作品を英語で読むので、当然、わからないことがさまざまと出てきます。そのわからないことを一緒に調べ、考え、話し合っていくなかで面白さへと変えていきましょう。テキストは主に英語学習者向けにつくられたレベル別洋書を使用しますので、セミナーの英語レベルは中学から高校くらいとお考えください。どうぞお気軽にご参加ください。お待ちしております

●「生物よもやま話」講師:大島朗伸 客員准教授

8月25日(木)15:30～17:00 ※7・9月はお休みします。

地球上には様々な生物が棲息しています。これら生き物について知っているようで知らないことが、実は意外とたくさんあります。また、全く興味がなかった生き物についても、その生物に関する話を聞くことによって、新たな興味がわいてくるかも知れません。このセミナーでは様々な生き物に関連した、ちょっとしたお話を紹介していこうと思っています。

●「人はなぜ忘れるのかー忘却の認知心理」講師:高山草二 客員教授

8月28日(日)13:30～15:00 ※第1講義室(セミナー後、心理資格取得説明会)

人は必要なことを忘れてしまうのに、忘れたいことをよく覚えていたりします。さまざまな「忘れる」という現象の認知心理学的な分析を通して、忘却のしくみについて考えてみます。

●「消費生活セミナー(3)いのち・暮らしを守る防災の知識」講師:多々納道子 客員教授

9月3日(土)13:30～15:00

日本は、地震、津波、台風、洪水、大雪などの自然現象による被害を受けやすい国です。平成28年熊本地震に見られるように、一端災害が発生すれば、中・長期にわたって暮らしに大きな影響があります。自然現象を止めることはできませんが、心構えや準備によってその被害を最小限に抑えることができます。災害に備えて、衣・食・住などの暮らし方について一緒に考えてみましょう。

公開講座 美術に親しむⅢ

「モネを追うセーヌ河岸の旅 - パリ、ル・アーヴル、ルーアン、ジヴェルニー -」講師:佐々有生 所長

日時・場所:

8月27日(土)13:30～15:30 島根学習センター(スティックビル3階 第1講義室)

島根同窓会当面の行事案内

平成28年度第1学期学位記授与式開催のご案内

日 時 平成28年9月25日(日)11:00~12:00 (主催:学習センター)
 会 場 松江市 島根学習センター 3階 「第一講義室」
 ※後輩の卒業生を祝福するため、多数のご参加をお待ちしています。

平成28年度第1学期卒業を祝う会開催のご案内

日 時 平成28年9月25日(日)12:00~13:30 (主催:島根同窓会)
 会 場 松江市 島根学習センター 4階 「第二講義室」
 会 費 1,200円(センターに事前予約) 電話0852-28-5500

放送大学公開講座開催のご案内

日 時 平成28年10月1日(土)13:30~15:00
 会 場 米子市 米子コンベンションセンター 5階 「第5会議室」
 演 題 『日本の城郭・米子城』
 講 師 金澤雄記先生(国立米子高等専門学校・助教)
 定 員 50人(先着順)
 申込先 島根学習センター (☎ 0852-28-5500 Fax 0852-28-1800)
 主 催 島根学習センター
 共 催 島根同窓会
 受講者 地域を限定していませんのでご参加下さい。

島根同窓会地域別会員懇談会(3回)開催のご案内

島根同窓会では、松江市以外での地域に居住されている同窓会員、卒業生、在校生の皆さんと懇談するため、地域毎に開催しています。すでに浜田市、出雲市にて開催してきました。本懇談会は島根学習センターも賛同され共催として開催しています。今回は主に鳥取県西部地域と安来市の方を対象としての開催となります。

日 時 平成28年10月1日(土)15:00~16:50
 会 場 米子市 米子コンベンションセンター 5階 「第5会議室」
 ①島根学習センター所長との意見交換
 ②島根同窓会役員との意見交換
 ③放送大学への要望事項他
 定 員 定員はありませんが資料作成上事前にお申込み下さい。
 申込先 島根学習センター (☎ 0852-28-5500 Fax 0852-28-1800)

島根学習センター開設 20 周年記念事業開催予告

島根学習センターでは、平成8年(1996)に開設され今年で20周年となります。20周年を記念して岡部学長を招き、記念講演会とレセプションを開催します。卒業生の皆さんも是非この機会にお出かけ下さい。詳細が決定次第改めてご案内します。

日時 平成28年11月12日(土) 13:30~16:30

会場 松江市 島根県立美術館 1階「ホール」

記念講演者決定

①岡部洋一さん(放送大学学長)

②藤間 寛さん(松江歴史館学芸専門監・前県立美術館学芸員)

申込先 島根学習センター (☎ 0852-28-5500 Fax 0852-28-1800)

新会員のご紹介

平成27年度にご入会された皆さんです

平成27年度において島根同窓会にご入会された皆さんです。よろしくお願ひします。

○平成19年度1学期卒業

生活と福祉コース 阪本 清 さん

○平成25年度1学期卒業

生活と福祉コース 長尾美和子さん

○平成26年度2学期卒業

心理と教育コース 柴田かおるさん

心理と教育コース 舟木あゆみさん

生活と福祉コース 松本ゆかりさん

○平成27年度1学期卒業

生活と福祉コース 逢坂かおるさん

心理と教育コース 今井 美夏さん

心理と教育コース 大下 丈晴さん

生活と福祉コース 清見 順子さん

心理と教育コース 和田 美和さん

○平成27年度2学期卒業

修士社会経営学科 難波 幸夫さん

心理と教育コース 安井多喜恵さん

心理と教育コース 門脇 潤子さん

生活と福祉コース 石倉八千代さん

生活と福祉コース 田中 良子さん

生活と福祉コース 品川 隆博さん

生活と福祉コース 山根美樹子さん

◆編集後記◆

赤く裂けた八つの頭、オロチがのたうち狂う。勇壮な石見神楽で須佐之男命が手にする御佩刀は、中国山地奥深く奥出雲で、三日三晩かけ踏鞴製鉄(たたらせいてつ)によって産まれた十拳の剣。次々と大量の炭と砂鉄が投入され、オロチのように炎をあげて燃える踏鞴炉から三日三晩の後、真っ赤な鐵の河、ノロとなって流れ出た跡に残った、玉の如き玉鋼は打たれ・突かれ・焼きを入れられ・冷や水に突き落とされ、そうして折れず曲がらず、凜として冴えのある日本刀となる。

昨年秋私はツアーで「奥出雲たたら御三家」の二つ、田部家と櫻井家、それに高殿様式として全国で唯一残る菅谷たたら^{すがや}山内^{さんない}を見学した。そして八岐大蛇神話と踏鞴製鉄とのロマンに満ちたつながりをこの目で確認し、新たな感動を得た。「たたら」誌も今号で7号を迎えた。「たたら」から産まれた玉鋼は日本刀となり歴史の中で数々のドラマを作った。玉鋼を生みドラマを生み出す放送大学島根同窓会誌「たたら」としたい。

(たたら製鉄は文化庁よりこの四月「日本遺産」に認定されました)。

知野見